

猫の社会化

■ 社会化期

猫がさまざまな環境の変化にうまく適応出来るかどうかは、遺伝的な素因と幼い頃の生活環境が大きく影響します。特に**生後2週齢から7週齢頃の社会化期と呼ばれる時期の環境は、とても大切**です。

この社会化期とは、動物が幼い時期に他の仲間との絆を形成する時期のことです。自然界ではこの対象は普通、母親や兄弟などの同種の動物ですが、我々人間が飼っている動物は人間とのつながりを形成していくこととなります。同時にこの社会化期にその他の種類の動物との絆を結ぶことも出来ます。

またこの時期はまわりの環境に対しても寛容で、この時期に馴染んだものには大人になっても過剰な反応を起こさなくなります。従ってこの時期にいろいろなものに慣れることでその後起きるさまざまな生活環境の変化を受け入れやすくなるのです。

よく女性に飼われている猫で男性を恐がる猫がいます。幼い時期から大人、子供、女性、男性といろいろな人に会わせてかわいがってもらえば将来特定の人を恐がることはありません。性格の良い犬と遊ばせてあげるようにすれば犬とも仲良くなれます。またハムスターと一緒に飼いたいとお考えならこの時期から仲良くさせてあげればよいのです。



その反面、この時期母親や兄弟から離されてしまい他の猫との接触がないと、猫でありながら、他の猫とうまくつき合えない猫に育ってしまう可能性もあります。これはとても残念なことから、少なくとも猫との社会化が出来る環境をあたえてあげてください。そのためには**母猫や兄弟猫からあまり早くに離さない**こと、社会化期には他の猫と遊ぶ時間を十分作ってあ

げることが大切です。

つまりこの社会化期に将来起こりうるさまざまな環境の変化を想定してあらかじめ子猫を慣らしておく、大人になってからよりずっと簡単にしかも確実に慣らすことができます。

猫をさまざまな環境の変化にうまく適応させるためには、この幼い時期の教育が最も近道と言えるのです。ただし注意しなければいけないことが2つあります。ひとつは**社会化期に怖い思いをさせない**こと。たとえば子供に慣れさせようとして、子供と遊ばせて子供にいたずらをされてひどく怖い思いをしたら、子供に慣れるどころか子供恐怖症になってしまうかもしれません。

この時期のこころの傷は、生涯にわたって影響を残すことがあります。従って飼い主であるあなたが十分見守ってあげられる状況でさまざまなものに慣らしてあげる必要があります。

二つ目は特に**人間や猫以外の動物と社会化を試みる時は双方に危険がないように注意して行う**こと。そしてそのことに生涯責任をもてるようであればいけません。たとえば性格の良い犬ばかりと遊ばせて犬が大好きな猫になったら、犬に対して無防備になってしまうわけですから、万一犬が急に猫に攻撃してきたら、大けがをしまう可能性があるのです。従って猫をひとりで外出させるのはとても危険ですし、他の犬に合わせる時には飼い主が十分気をつけてあげなければいけません。

さて「そんなこと言ってもうちの子は大人よ。」という声が聞こえてきそうです。以前はこの社会化期はとても厳密なもので、この時期をすぎてしまうと生涯それを取り戻すことは不可能と考えられていました。現在では時間を要するものの不可能ではないということがわかってきました。ただしもちろん社会化期の子猫に比べるとはるかに長い時間と忍耐が必要です。

このペーパーは株ペット・ペット社が提供する **PET LOVERS' FORUM** (<http://www.pet-vet.or.jp>)で、もみの木動物病院 村田香織先生が提供されたものを一部改編して作成しております。

イラスト著作：くぼじょうこ

このペーパーは下記当院のインターネットホームページで24時間無料で取り出せます。また、ホームページには他にも様々な情報が掲載してありますので、ぜひご覧ください。



Copyright (C) 2001 Tatsuya Fukuyama DVM, AFP IKI ISLAND VETERINARY CLINIC.
Tel 0920-47-6767 Fax 0920-47-0350 e-mail: foffice@bronze.ocn.ne.jp
<http://www.ikikoku.com/pet.html>